



ルータの起動

ハードウェアの設置後、ルータを起動します。XR コンソールポートに接続し、ルータの電源をオンにします。ルータは、プリインストールされたオペレーティングシステム (OS) イメージを使用してブートプロセスを実行します。ルータ内に使用できるイメージがない場合は、iPXE ブートまたは外部のブート可能な USB ドライブを使用してルータを起動できます。

起動が完了したら、root ユーザ名とパスワードを作成します。その組み合わせを使って XR コンソールにログインするとルータプロンプトが表示されます。XR コンソールで作成された最初のユーザは、システム管理コンソールに同期されます。XR コンソールからシステム管理コンソールにアクセスして、システム管理設定を行います。

- [ルータの起動 \(1 ページ\)](#)
- [root ユーザクレデンシャルの設定 \(2 ページ\)](#)
- [システム管理コンソールへのアクセス \(3 ページ\)](#)
- [管理ポートの設定 \(4 ページ\)](#)
- [NTP サーバとのクロック同期の実行 \(5 ページ\)](#)

ルータの起動

新しいルータに接続するには、ルートプロセッサ (RP) のコンソールポートを使用します。コンソールポートはデフォルトでXR コンソールに接続されます。必要に応じて、設定済みの管理ポートを通じてさらに接続を確立できます。

手順

ステップ 1 RP のコンソールポートに端末を接続します。

ステップ 2 ワークステーションで端末エミュレーションプログラムを起動します。

モジュラ型シャーシ RP の場合、コンソール設定はボーレートが 9600 bps、パリティなし、ストップビットが 2、データビットが 8 です。固定シャーシの場合、コンソール設定はボーレートが 115200 bps、パリティなし、ストップビットが 2、データビットが 8 です。ボーレートはデフォルトで設定されていて、変更することはできません。

ステップ3 ルータの電源を投入します。

電源コードを電源モジュールに接続してルータを起動します。端末エミュレーションプログラムのコンソール画面に、ブートプロセスの詳細が表示されます。

ステップ4 Enter を押します。

root-system ユーザ名の入力を求めるプロンプトが表示されたらブートプロセスは完了です。プロンプトが表示されない場合は、ルータの初期ブート手順が完了するまでしばらく待ってから Enter を押してください。

重要 ブートプロセスが失敗する原因として、ルータにプリインストールされているイメージが破損していることが考えられます。この場合は、外部のブート可能な USB ドライブを使用してルータを起動できます。

次のタスク

root ユーザ名およびパスワードを指定します。

root ユーザ クレデンシャルの設定

ルータの初回起動時に、root クレデンシャル（ユーザ名とパスワード）の設定を求めるプロンプトが表示されます。これらは、XR (root-lr) コンソールおよびシステム管理 VM (root-system) の root ユーザ クレデンシャル、およびディザスタリカバリのクレデンシャルとして設定されます。

手順**ステップ1** Enter root-system username: *username*

root ユーザのユーザ名を入力します。文字数制限は1023文字です。この例では、root ユーザの名前は「root」です。

重要 指定したユーザ名は、XR コンソールの「root-lr」グループにマッピングされます。また、システム管理コンソールの「root-system」ユーザとしてもマッピングされます。

ルータの初回起動時またはイメージの再作成後は、ルータにユーザ設定がありません。この場合、ルータによって「root-system ユーザ名」を指定するように要求されます。ただしすでにルータが設定されている場合は、ステップ4で説明したように「ユーザ名」の入力を求めるプロンプトが表示されます。

ステップ2 Enter secret: *password*

root ユーザのパスワードを入力します。パスワードの文字数は6～253文字です。セキュリティ上の理由から、入力したパスワードはCLIに表示されません。

root ユーザにはスーパーユーザ権限があるため、root ユーザ名とパスワードは保護する必要があります。これはルータ設定全体へのアクセスに使用されます。

ステップ3 Enter secret again: *password*

root ユーザのパスワードをもう一度入力します。パスワードは、前のステップで入力したパスワードと一致しないと拒否されます。セキュリティ上の理由から、入力したパスワードはCLIに表示されません。

ステップ4 Username: *username*

XR VM コンソールにログインするため、root-system ユーザ名を入力します。

ステップ5 Password: *password*

root ユーザのパスワードを入力します。正しいパスワードを入力するとルータのプロンプトが表示されます。これで XR VM コンソールにログインできました。

ステップ6 (任意) show run username

ユーザの詳細を表示します。

```
username root
group root-lr
group cisco-support
secret 5 $1$NBg7$fHs1inKPZVvzqxMv775UE/
!
```

システム管理コンソールへのアクセス

すべてのシステム管理とハードウェア管理の設定を行うには、XR コンソールからシステム管理コンソールにログインする必要があります。

手順

ステップ1 root ユーザとして XR コンソールにログインします。

ステップ2 admin

例 :

ログインバナーは、デフォルトで有効に設定されています。次の例では、ログインバナーを有効にした状態のコマンド出力を示しています。

```
RP/0/RP0/cpu 0: routerRP0/CPU0:ios#admin

Mon May 22 06:57:29.350 UTC

root connected from 127.0.0.1 using console on host
sysadmin-vm:0_RP0# exit
Mon May 22 06:57:32.360 UTC
```

次の例では、ログイン バナーを無効にした状態のコマンド出力を示しています。

```
RP/0/RP0/CPU0:router#admin
Thu Mar 01:07:14.509 UTC
sysadmin-vm:0_RP0# exit
```

ステップ3 (任意) **exit**

システム管理モードから XR モードに戻ります。

管理ポートの設定

管理ポートをシステム管理およびリモート通信に使用するには、管理イーサネット インターフェイスの IP アドレスとサブネット マスクを設定する必要があります。他のネットワーク上のデバイス（リモート管理ステーションや TFTP サーバなど）と通信する場合は、ルータのデフォルト（スタティック）ルートを設定する必要があります。

始める前に

- ネットワーク管理者またはシステムの設計担当者に問い合わせ、管理インターフェイスの IP アドレスおよびサブネット マスクを入手します。
- RP の物理ポートイーサネット 0 は管理ポートです。ポートが管理ネットワークに接続されていることを確認します。

手順

ステップ1 **configure**

ステップ2 **interface MgmtEth rack/slot/port**

例：

```
RP/0/RP0/CPU0:ios(config)#interface mgmtEth 0/RP0/CPU0/0
```

プライマリ RP の管理インターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。

ステップ3 **ipv4 address ipv4-address subnet-mask**

例：

```
RP/0/RP0/CPU0:ios(config-if)#ipv4 address 10.1.1.1/8
```

IP アドレスとサブネット マスクをインターフェイスに割り当てます。

ステップ4 **no shutdown**

例：

```
RP/0/RP0/CPU0:ios(config-if)#no shutdown
```

インターフェイスを「アップ」状態にします。

ステップ5 **exit**

例：

```
RP/0/RP0/CPU0:ios(config-if)#exit
```

管理インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。

冗長ルート プロセッサで上記の手順を繰り返します。

ステップ6 **ipv4 virtual address ipv4 virtual address subnet-mask**

例：

```
RP/0/RP0/CPU0:ios(config)#ipv4 virtual address 1.70.31.160 255.255.0.0
```

仮想 IP アドレスとサブネット マスクをインターフェイスに割り当てます。

ステップ7 **commit**

次のタスク

管理ポート経由でイーサネット ネットワークに接続します。端末エミュレーションプログラムで、管理インターフェイス ポートへの SSH または Telnet 接続をその IP アドレスを使って確立します。ルータに対して許可される Telnet セッションの数を設定するには、Telnet セッションを確立する前に、XR コンフィギュレーション モードで **telnet ipv4|ipv6 server max-servers** コマンドを使用します。

NTP サーバとのクロック同期の実行

XR コンソールとシステム管理コンソールにはそれぞれのシステムクロックがあります。これらのクロックが実際の時間とずれないように、NTPサーバのクロックと同期する必要があります。このタスクでは、XR コンソール用に NTP サーバを設定します。XR コンソールのクロックを同期すると、システム管理コンソールのクロックは自動的に XR コンソールのクロックと同期されます。

始める前に

管理ポートを設定して接続します。

手順

ステップ1 **configure**

ステップ2 **ntp server server_address**

例：

```
RP/0/RP0/cpu 0: routerRP0/CPU0:ios(config)#ntp server 64.90.182.55
```

指定したサーバと同期するように XR コンソールのクロックが設定されます。
